

年頭のごあいさつ



明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお慶びを申し上げます。

市町村を担う人材の共同研修機関として平成5年に開講した全国市町村国際文化研修所（JIAM）は、これまでに全体の9割を超える市町村にご活用いただき、昨年末時点で約11万人の方々にご受講いただいています。各市町村をはじめ、関係の皆さまからいただいたご支援、ご協力の賜物であり、心より厚くお礼申し上げます。

さて昨年は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が、新型コロナウイルス感染症の影響で1年延期されたうえで開催されました。世界中から集まった一流アスリートたちによるパフォーマンスは、私たちに多くの勇気と感動を与えてくれるとともに、改めてスポーツの持つ大きな力を教えてくれました。また、競技を通して彼らが残したコメントにも、素晴らしいものが数多くありました。その一つが、「静岡で生まれ、静岡で死にかけて、静岡で生き返って。今日、金メダルを獲った」—パラリンピック・自転車ロード、杉浦佳子選手の言葉です（引用元：パラサポWEB2021.09.01.WED 公開記事）。人並み外れた能力を人並み外れた努力で磨き上げ、逆境を超えて栄冠に輝いたアスリートにとって、これまでの道のりは決して平坦なものではなかったと思います。そうしたことが、自分が育った郷土への愛着とともにシンプルにそして力強く表現されていて、心に響くものがありました。また同時に、時代や環境の変化を超えて、住む人の心のよりどころとなり、いつも温かく見守ってくれているような地域社会の姿にも、改めて思いを致したところです。

翻って、地域社会がそこに住む人々から信頼され、また永く愛されるものであるためには、地方自治体、なかんずく住民に最も身近な基礎自治体である市町村が、多様化する住民ニーズに的確かつ丁寧に応え、それを積み重ねていくことも、要諦の一つだと思われまます。

JIAMは、グローバル化し、その変化自体も加速化の一途をたどる我が国を支える市町村行政の重要性に鑑み、高度な企画力・問題解決力を備え、新たな課題にも果敢に対峙し得る人材の育成に向けて、本年も努力を続けてまいります。今後は特に、災害や感染症などに対する自治体職員の危機管理能力の強化やグローバルな知識・視野の獲得に向けた研修に加え、「自治体DX推進計画」なども踏まえつつ、“誰一人取り残さない、人に優しい”デジタル社会の形成を見据えた研修の充実を図ってまいります。

皆さまにとって、令和4年が素晴らしい一年となりますことを心からお祈り申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

全国市町村国際文化研修所

学長 藤田 穰